

### 第三章 空蟬の物語 夫の死去後に出家

#### [第一段 夫常陸介死去]

かかるほどに、この\*常陸守、老いの積もりにや、悩ましくのみして(そうする内にかの常陸守は歳の所為か病気がちになって)、もの心細かりければ、子どもに(心細くなったので息子たちに)、ただこの君の御ことをのみ言ひ置きて(ただこの奥方の事だけを言い残して)、 \*注に<常陸国は親王が大守となり遥任なので、介が実質上の守となるので、「常陸守」と呼称された。>とある。

「よろづのこと、ただこの御心にのみ任せて(万事この母君の御心に従って)、ありつる世に変はらで仕うまつれ(我が生前に変わりなく御仕え致せ)」とのみ、明け暮れ言ひけり(何度も繰り返し言っていました)。

女君(妻が)、「\*心憂き宿世ありて(親を早くに亡くした悲しい身の上で)、この人にさへ後れて(夫にまで先立たれては)、いかなるさまに放れ惑ふべき(はふれまどふべき、はぐれ迷ってしまう)にかあらむ(ことだろう)」と\*思ひ嘆きたまふを見るに(と思ひ嘆きなさるのを夫の常陸介が見ては)、 \*「心憂き宿世」については帚木巻で、むしろ小君の説明としてだが、親の早死にを受けて家の権威を失った女君は、弟の面倒を見てもらう条件で歳の離れた常陸介、当時の伊予介の許に囲われの身で世話になった、のだが、伊予介の息子たちは父親の再婚を年甲斐も無く色に目が眩んだと非難していた、と記されていた。 \*注に<「思ひ嘆く」空蟬には敬語がつき、「見る」常陸介にはつかない。>とある。常陸介が妻を敬うのは上官の娘を貰い受けたからだろう。身分社会の人間模様か。今でも、こういう人間関係はある。

「命の限りあるものなれば、惜しみ止むべき方もなし(寿命には逆らえない)。いかでか、この人の御ために残し置く魂もがな(何とか妻を見守る魂が残せないものか)。わが子どもの心も知らぬを(息子たちの気も知れないし)」

と、うしろめたう悲しきことに、言ひ思へど(死後を案じて悲しんで言うとは思っていたが)、心にえ止どめぬものにて(気持ちで止められるものでも無く)、亡せぬ(亡くなりました)。

#### [第二段 空蟬、出家す]

しばしこそ(常陸介が亡くなって暫くの間こそは義理の息子たちも)、「さのたまひしものを(折角御遺言なされたのだから)」など、情けつくれど(親切にしていたが)、うはべこそあれ(上辺こそはそうでも)、つらきこと多かり(情けないことは多かったです)。

とあるもかかるも世の道理なれば(継母と義理の息子の仲たがいは資産の奪い合いという世の道理なので)、身一つの憂きことにて、嘆き明かし暮らす(母君は厭な事も自分ひとりが胸に収めて嘆き暮らします)。

ただ、この河内守のみぞ、昔より好き心ありて(昔から母君に恋気が有って)、すこし情けがりける(幾らか親しげにします)。

「あはれにのたまひ置きし(父があんなに申し置かれた)、数ならずとも(程のお世話は出来な  
いかも知れませんが)、\*思し疎までのたまはせよ(遠慮なさらずに何なりと仰せられよ)」など追  
従し寄りて(などと機嫌を取って近付いてきて)、いとあさましき心の見えければ(抱きたい気持  
ちが見えすいていたので)、 \*「思ひ疎む(おもひうとむ)」は<疎ましく思う→疎遠に思う→親しまない→遠  
慮する>ということのようだ。「思し疎まで」の「で」は< [接助] 活用語の未然形に付く。上の事柄を打ち消して下  
に続ける。…ないで。…ずに。>と大辞泉に説明されている。訳文の「遠慮なさらずに」に従う。

「憂き宿世ある身にて(大事な人たちに死に遅れた悲しい身の上で)、かく生きとまりて、果て  
果ては(こうして生き延びた挙句に)、めづらしきことどもを聞き添ふるかな(見つともない浮き  
名を残しては、情けない)」と、人知れず思ひ知りて(人知れず決心して)、人にさなむとも知ら  
せで(誰にもそうとは知らせずに)、尼になり(にけり(尼になってしまいました))。

ある人びと、いふかひなしと、思ひ嘆く(仕えていた女房たちは、仕方が無いと失職を嘆きま  
す)。守も、いとつらう(河内守も、たいそう辛く)、

「おのれを厭ひたまふほどに(おれを嫌いなさっての事か)。残りの御齡は(のこりのおんよは  
ひは、残りの人生は)多くものしたまふらむ(まだ相当長いだろうに)。いかでか過ぐしたまふべ  
き(どのようにお暮らしなさるやら)」などぞ、\*あいな(のさかしらや(つまらない差し出口といっ  
たところ)、などぞ、はべるめる(などと、申しているようです)。 \*「あいな」は「あいなし」で<つま  
らない、訳が分からない>。「賢しら(さかしら)」は<利口ぶること、差し出口>。「や」は列挙だが他例は省略され  
て「などぞ」と一括されている。

(2010年4月13日、読了)